

レコーディングの進行 .1 (パート別録音の方法)

リズム録り

通常の録音では、最初にDr. 録りから始めますが、先にも述べた通りBass. とGt. のリズム隊と一緒に録音する方法があります。どちらがよいとは一概にはいえませんが、効率もいいですしバンドとしてノリを優先して考えれば、一緒に録音したほうがよいと思われると思います。また、複数の曲を録音する場合は、一度セッティングしてしまえば大きく変更する必要のないことからリズム隊のみ何曲かまとめて録ってしまうのが一般的です。

5-1 Dr. 録りのセッティング

Dr. には、それぞれのKitにマイクを立てます。Kick. SN. TOM. HH. それと Cym. を録るためのオーバートップのマイクをL, Rで立てます。また、それ以外にアンビエント用にオフマイクを立てる場合もあります。(レコーディングの種類によって本数が違います。)

録音時での音作りにおいて一番重要なのはチューニングです。プロとアマチュアの音の差でもっとも感じられるのがこの部分です。また、普段気にならない共鳴も目立ってきます。音作りの時などにヘッドの表と裏のバランスで回避できますので、一度研究してみてください。また、共鳴の回避を含めて使わないKitはできる限りはずしましょう。

(注.) マイクのセッティングはヘッドの距離や角度で大きく音色に影響しますがドラムのセッティングの都合上どうしても妥協しなければならない場合がありますのでドラムのセッティングには十分注意をして下さい。

5-2 Bass. 録り

ライン録り、もしくはアンプを鳴らしてマイクで録る方法があります。しかし、Dr. やGt と共に演奏するとお互いのマイクに音が回り込みますので、音色的に問題がなければライン録りで十分です。また、ヘッドアンプやプリアンプで、ある程度音作りが出来ている場合は、アンプのラインアウトから録音する場合があります。

(注.) リズム隊として録音する場合でも、Dr. 以外はパンチイン、パンチアウトが可能ですので Dr. がOKになればBass. Gtは修正できます。その辺りも頭において演奏して下さい。

5-3 Gt. 録り

Gt. もライン録り、もしくはアンプを鳴らしてマイクで録る方法があります。ただしBass. に比べて音色的に違いがでますし、マイクの場合でもオンとオフでも違います。単純に分類すれば、ラインではカッティング等のリズム向き、それ以外の太い音はアンプでの録音に向いています。アンプの種類も真空管かトランジスターかで音の傾向が変わってきますので、演奏する内容に合わせて楽器の選択とともにアンプも選んで下さい。